



がん高度実践看護師WG講演会 in Tokushima
2024年度がん看護インテンシブコースⅡ

「がん医療の新たなニーズやアンメットニーズに
応えるケアの質向上を推進する看護師養成」

がんリハビリテーション看護としての 看護インターベンションを考えよう



勝島 詩恵 先生 13:10~14:10

(関西医科大学病院呼吸器腫瘍内科学講座・助教)

「がんリハビリテーションに対する現状と課題」



福島卓矢先生 14:15~15:15

(関西医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科・助教)

「実臨床で実践するためのがんリハビリテーション」



早川満利子先生 15:20~16:20

(東京医科歯科大学病院 がん看護専門看護師)

「がんリハビリテーション看護におけるがん看護専門看護師の役割」

2024年7月6日(土)

13:00~16:30

WEB開催

※**参加費無料**ですが、**事前申し込み**が必要です
(先着80名様まで)



参加締切
6月28日まで

参加申し込み方法：下記URLまたは、右記のQRコードを読み取ってお申し込みください。

(Forms) <https://forms.office.com/r/AaQygCd4YT>

※ご所属、氏名、職種、メールアドレスの登録が必要です。



主催：高知県立大学大学院看護学研究科 徳島大学大学院医歯薬学研究部保健科学研究部
山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻

■ 講師紹介

勝島 詩恵 先生

久留米大学をご卒業後、2007年より呼吸器内科医として多数の病院でご勤務され、まだエビデンスの少ないがんリハビリテーションを自らのライフワークにしようと決められ、2020年より関西医科大学リハビリテーション医学講座にてがん患者へのリハビリテーションに従事され、現在では、呼吸器腫瘍内科学講座の助教としてご着任され、ご活躍されています。

■ 内容

根治を目指せない進行再発がん患者にとっての、単に体重増加や身体機能の維持といった量的目標は達成できない時期を迎えてしまったときに、どのように関わるべきなのか、がんリハビリテーションの持つ役割は何かについて、フレイル外来の活動を通してご講演頂く予定です。

■ 講師紹介

福島 卓矢 先生

長崎大学医学部保健学科をご卒業後、2015年に慶應義塾大学大学院修士課程修了、2019年に長崎大学大学院博士課程修了され、2019年には国立がん研究センター中央病院にて臨床経験を積まれておりました。現在は関西医科大学にて卒前教育を行うとともに、周術期～進行・再発期のがん患者に対する臨床・臨床研究を精力的に進められております。

■ 内容

実臨床でがんリハビリテーションの進め方について、現在得られているエビデンスを整理するとともに、がんリハビリテーションの適応となる症例のスクリーニング方法、運動療法を中心とした介入戦略やその効果検証に関して、病棟でも実践できる内容を含めて講演して頂く予定です。

■ 講師紹介

早川 満利子 先生

2006年に北里大学大学院看護学研究科修士課程をご卒業後、臨床経験を経て、2009年にはがん看護専門看護師の資格を取得され、2016年には現在ご勤務されている東京医科歯科大学病院において、臨床実践を積まれております。これまでに、マーガレットA.ニューマン理論を基にした看護実践に関する論文をご執筆されております。

■ 内容

がんリハビリテーション看護の基本的な考え方を踏まえつつ、事例をふまえニューマン理論を基にしたケアリング・パートナーシップについてご講演して頂き、理論を基にした意図的な看護実践として、実臨床において明日から活用できるお話をして頂きます。お話から浮かび上がるがん看護専門看護師の役割を捉えて頂ければと思います。